

編集後記

論文は、必要上どうしても長文になってしまうものもある。しかし、一般に学術論文は、長ければ良いというものではない。今回の投稿論文にも、若干冗長なものがあったが、著者らが編集委員長の勧告をよく理解し積極的に協力して下さりスマートな論文に改訂出来たのは誠に喜ばしく思った。(太田 稔)

庭師が草を喰えて、ほげっとなしながら植木を一日中ながめています。時折、生きついたかのように枝葉を缺みます。その一缺が、植木を活気づけ、実に立派な観賞用植物と化してゆきます。

本誌に投稿される論文には、実験的研究、これまでの集計検討研究、症例研究といった具合にさまざまです。がいずれも各々の最終目的はきまっています、その導入、展開部分及び結論部分をいかに適確にあらわすかが問題です。従って、あれも述べたい、これもだという前にやはり中心的な部分はどれか幹をじっくり考えて、本当に必要な枝葉だけで飾ってみてはどうでしょう。きっと誰もが目をとおしたくなり、しかも投稿費用の殆んどいらぬ論文が出来上ります。こんな所にも経費節減ができて、しかも理解しやすい役に立つ文が出来上ります。(坂巻公男)

春の学会シーズンの頃に編集委員長から依頼があり、本誌の編集に携わることになりました。4月の後半から投稿原稿が次々と査読に廻って来始め、編集者の一員として嬉しい悲鳴を上げることになりました。

それらの査読論文を前に過去を振り返って見ますと今までの二十年の間に恩師の三田俊定先生、佐藤誠先生そして現在教室主任の鈴木隆先生から論文添削を通じて色々指導して頂いた時の記憶が頭の中に蘇ってまいります。これら三先生の教を念頭に置きながら、本学会誌の編集委員を勤めて行きたいと思います。

今回の11巻2号には大著の部類に入る内容の豊富な

論文が数編あり、本誌の内容の充実と共に少し厚みを増すことと思います。また次号からは大学院の方々の投稿も見られるようになるでしょうが、大いに期待しました歓迎したいと思います。(佐藤 匡)

このたび、名和新編集委員長から編集作業を手伝うように申し付けられ、参画することになりました。廻ってくる原稿を査読させて頂き、投稿者の論文作成に関する考え方が、それぞれの専門分野によってかなり異っていることに気がきました。

本誌は、歯科医学の総合雑誌であると共に、大学発展のためにも、きわめて主要な役割を担っている機関であることは申すまでもありません。さらに権威ある学会誌とするためにも、投稿者は論文作成前に、是非とも「投稿規定の手引」を取り寄せ、一読されるようお願いしたいものです。そうすることによって、とりわけ編集委員長の大変な苦勞も、少しは緩和されるものと思います。(工藤啓吾)

11巻2号より編集委員会が交代になり、石橋寛二、太田稔、工藤啓吾、坂巻公男、佐藤匡の諸先生が編集委員になられ、不肖私が編集幹事と編集委員長をおおせつかりました。伊藤忠信前編集委員長の御苦勞をみていまして、これは大変なことになったと思っております。それでも一期という御約束で微力ながら努力したいと思います。委員の交代にあたって特に新しい方針はありませんが、次号からは図、表の説明はすべて英文説明になります。編集委員会は縁の下の役割で、主役は会員の皆様です。多くの投稿を期待しております。

後記を借りまして、伊藤忠信前編集委員長、鈴木輝美、亀谷哲也前編集委員の御苦勞に感謝申し上げます。(名和澄黄雄)

岩手医科大学歯学雑誌

第11巻 第2号

昭和61年7月10日 印刷

昭和61年7月15日 発行

発行人 鈴木 隆

発行所 岩手医科大学歯学会

盛岡市中央通1-3-27

岩手医科大学歯学部内

振替口座 盛岡 1358

電話 0196-51-5111

印刷所 川口印刷工業株式会社

盛岡市本町通2-13-8